



巧みな施工計画を立て 診療を続けながら建て替える

東香里第二病院新築及び本院改築工事

大阪府枚方市の東香里病院は一九五四年に開業して以来、市民の健康を支えている。増改築により規模を拡大してきたが、耐震性確保と医療の充実を図るために、第二病院の新築と本院の建て替えに着手した。
長らく親しまれてきた現在の立地を優先し、敷地内で建て替えるために工夫がこらされている。柔軟に施工に臨む(株)松村組・中田利幸所長に話を聞いた。



地域に根差した開業の地で 生まれ変わる病院

京都市と大阪市の中間に位置する枚方市。西部には公団住宅の先駆けとなった香里団地があり、古くからの住宅街が広がる。その一角に開業して六〇年以上になる東香里病院は総合病院として内科、外科、精神科など一二の診療科目を掲げ、ベッド数は三一七床。これまで時代とともに増改築を重ね、棟数を増やし、地域に根差す病院として機能を拡充してきたが、現代に

要求される耐震性能を確保しつつ、より充実した医療を提供できる施設への転換を数年前から検討していた。その結果、本院から五〇〇メートルほど東に取得していた敷地に第二病院を新築し、本院を現在地で建て替えることを決定。医療福祉分野の実績も数多い(株)類設計室の設計監理のもと、(株)松村組大阪本店が施工に携わっている。第二病院と本院を同時に着工し、第二病院はすでに平成二十七年二月に竣工、供用されている。現在は本院の改築工事が来年六月末の竣工に向けて進行中だ。

複雑な建て替えの手順を踏んで施工

本院の工事の特徴は既存病棟を使いながら、新築に切り替えていくために、パズルのような手順が必要なことだ。これまでに病院建設の現



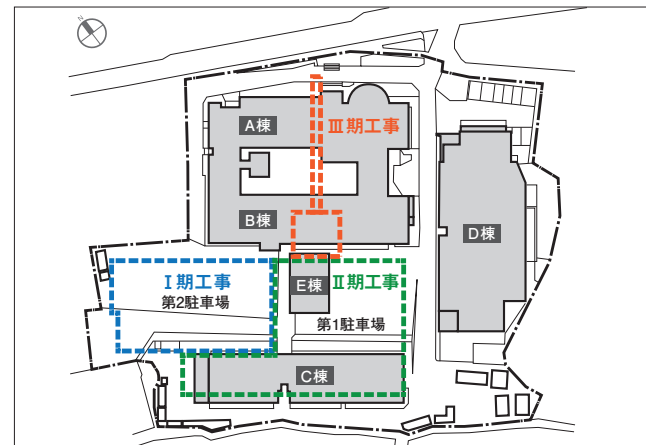
本院改築工事のⅡ期工事が進む現場。左の建物は昨年5月にできたⅠ期棟で、内部はすでに使用されている。梁の鉄筋が突き出している外壁面でⅡ期工事部分と接続する。右奥は工事中も診療に使われている既存のB棟で、Ⅲ期工事で解体される。



本院から500mほど東の敷地に新築された東香里第二病院。平成27年2月に竣工し、本院の機能の一部を移転した。



Ⅱ期工事の躯体工事を完了した地下1階。本院は将来のレイアウト変更に対応しやすいように、柱梁で地震力を負担する純ラーメン構造を採用。耐震壁を用いないため空間の自由度が高い。



①～⑨の施工手順により、最終的に既存のA、B、C、E棟は解体され、敷地南側の第1、2駐車場とC、E棟があった場所に本院を新築。北側のA、B棟がある位置に駐車場とアプローチが設けられる。

本院改築工事施工手順

- ①第2駐車場にⅠ期棟新築
- ②Ⅰ期棟を引渡し。B、C、E棟から部分移転し使用開始
- ③B棟を工事期間中の一時使用に備え改修
- ④C、E棟の機能をB棟に一時移転
- ⑤C、E棟を解体
- ⑥C、E棟跡・第1駐車場にⅡ期棟新築
- ⑦A、B棟からⅡ期棟に機能移転
- ⑧A、B棟解体。
- ⑨Ⅲ期工事でアプローチ底新設、駐車場等外構工事

工事概要

発注者：特定医療法人三上会
設計・監理者：株式会社類設計室
施工者：株式会社松村組大阪本店

【第二病院新築工事】

工期：平成26年3月18日～
平成27年2月10日
敷地面積：5,621.38㎡
建築面積：1,679.11㎡
延床面積：5,026.35㎡
構造：RC造
階数：地上4階

【本院改築工事】

工期：平成26年3月18日～
平成29年6月30日
敷地面積：10,368㎡
建築面積：3,113.49㎡
延床面積：10,524.53㎡
構造：RC造
階数：地上4階、地下1階



上／Ⅰ期棟は先行して引渡しし、仮使用されている。また、2方向避難を満たすために仮設の階段を設置している。
中／Ⅰ期工事。既存の第2駐車場を掘削し基礎を築く（提供：㈱松村組）。
下／Ⅱ期工事で既存のC、E棟を解体。第1駐車場の敷地と合わせて新築する。

化。すべての機能移転を果たし、Ⅲ期工事で残りの既存二棟（A・B棟）を解体して新しく外来用駐車場を整備する（四〇頁図参照）。まるで玉突きのように連動させながらの施工である。

使用しながらの施工に安全を図り たくさんの方の要望を調整する

さらに一つひとつの手順に、さまざまな手続きや工事が付随してくる。Ⅰ期工事では新築した部分は昨年五月から供用されているが、全体の竣工までは法的に仮使用という位置づけになっているという。枚方市から仮使用の許可を受けるために、安全計画を盛り込んだ申請書を作成し、二方向避難ができる設備を設けるなど、さまざまな条件を満たす必要がある。また、既存病棟を使用しながらの工事では配慮も多岐にわたる。「何よりも安全第一です。病院職員の方々の動線を確認し、工事エリアに入らないように遮断すること。供用中の病棟には患者さんがいらつしやるので、できるだけ騒音を抑え、塗料などの臭いが侵入しないようするなど、いろいろな気遣いが必要です」。聴診器を使う診察室の窓には後付けのサッシを加えるといった防音対策もなされている。

大きなリハビリ室を既存のC棟からB棟へ一時的に移転する際には、移転先の部屋を教室繋ぎ、改修をしておくといった工事も発生した。やがて取り壊す既存病棟の一時的な使用であっ



病院からの要望で、ベッド回りの造り付けのパーティションやベッドボードの仕様、デザインなどを提案した（提供：（株）松村組）。

め細かい要望にできる限り対応しているという。

癒しの場である病院にふさわしい現場運営

工事現場を訪ねてみると、Ⅱ期工事の躯体をつくりあげていくタイミングだった。三階床の型枠を組み立て、鉄筋を組んでいる真っ最中で、隣にⅠ期工事の建物の外壁を見ることができ（三九頁写真参照）。「横にラインが見えるシャッターのような壁は仮の外壁で、その内側の部屋はもう使われています。Ⅱ期工事がほぼできあがると、仮の外壁を外して内部でつなぐんです。軽量鉄骨下地で造った乾式耐火壁ですから、

ビス止めを外せば簡単に取り除けます」と中田所長。また、本体躯体構造は医療現場のレイアウト変更にも柔軟に対応できるよう、柱と梁だけで地震に耐える純ラーメン構造が採用されている。耐震壁を設けて地震力を負担させる構造では、将来、壁を取り払うレイアウト変更ができないからだ。

作業を進めている鉄筋工の人たちの表情も明るい。病院の現場運営はなるべく穏やかでありたいというのが中田所長の考えだ。「建設業の関係者は普通に話しているつもりでも、一般の方々には怒鳴っているように聞こえることがあるんです。和気あいあいとした現場をつくるのが大切だと思っています」。Ⅰ期工事の仕上げ段階では一〇〇人体制で臨んだ。各社の協力体制がうまくいってれば、現場の雰囲気もぐさぐさすることは無いという。「突貫工事を各社が競い合って進めるような現場になると大声も交錯します。ようはそんな状況をつくらないことが肝心です」。現場全体を見渡すまなざしには、厳しさのなかに優しさがあふれている。

今年の年末に取り掛かるⅢ期工事、患者さんのアプローチや搬入ルート、救急車のルートなどを確保しながら、段階的に解体を進めるなど、施工手順の綿密な検討が求められる。「六カ月で収めるには、もっと細かいところまで詰めていかなければなりません」と詳細な計画図を描いている最中だ。



Ⅰ期棟の外壁にⅡ期工事で増築した状況。壁の向こう側はⅠ期棟ですすでに供用されており、手前のⅡ期工事を仕上げるときに壁を外す。



右／病院スタッフが使用する廃棄物置き場が工事エリアの中に位置していたので、安全を重視して移動した。
左／CTスキャナーを既存病棟からⅠ期棟に移設。各種医療設備の引っ越しは、病院スタッフとスケジュールや動線を綿密に打ち合わせたうえで行われている（提供：（株）松村組）。

でも快適な医療環境を確保しなければならない。「既存病棟の状態などは、設計段階ではどうしても読み切れないことがあるものです。いざ、移転にとりかかろうとすると、配管の位置関係などで工事を阻まれることもあるので、実際に調査し、より合理的に施工できる方法を提案しています」。手探りで進む場面も少なくないと語る中田所長から、入り組んだ現場の状況を教わるほど、それをリードする巧みに驚いてしまう。

医療設備は日進月歩で発達しているため、病院スタッフからの要望も日ごとに変わっていく。手洗い器の機種や蛇口を院内感染の予防対策として推奨される最新の方式に変更するなど、き



既存のB棟（左）とⅠ期棟（右）を結ぶ仮設の連絡通路。通路の向こう側はⅡ期工事中。全体が竣工すると連絡通路は不要になる（提供：（株）松村組）。

Q あなたがこの現場で発見したことは何ですか？

A いままで経験した病院の新築現場では、病院の責任者の方との打ち合わせだけで工事が進んでいました。しかし、東香里病院では週1回の定例会議に各専門分野からスタッフの代表の方々が出席され、私も同席して直に打ち合わせをしています。概要はわかっているつもりでしたが、医療現場で実際に働く立場で語られる細かい要望を聞くと、「なるほど。そうだったか」と気づかされることがたくさんあります。

今回のような建て替えの現場では、スタッフの方々のなかへ入り込んで調整することで物事が進んでいくという実感を持ちました。病院の施工の仕事は調整の苦労もありますが、たくさんの方が関わり、新しく知ること多い。経験を重ねるほどやりがい大きいですね。



株式会社松村組
大阪本店 建築部
所長

中田利幸
Toshiyuki Nakada